

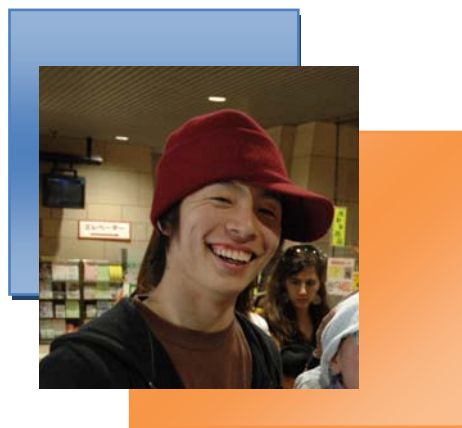
YES JAPAN 体験談

大熊織雄

法政大学社会学部社会学科3年生

YES JAPAN2007 に参加

YES JAPAN2008 にはスタッフとして協力



その後の人生を変える2週間だった。24カ国から来た友人たちと過ごした時間は大学生活でもっとも記憶に残る体験だ。私にとってYESは自分と自然、社会、そして世界との繋がりに気付くきっかけであった。それは私の残りの大学生活での行動を大きく変えた。

このような、ことを書くと何か洗脳をされた人のようでしょうか。自分でも少し気持ち悪いことを書いているなと思います。でも、実際に私にとってYESでの体験はそれほど大きなことでした。

このプログラムは、法政大学の人間環境学部に通う友人と一緒に参加しないかと誘われ、初めて知りました。かねてより、環境問題には漠然とですが興味があり、また英語を話せる環境に身を置きたいと考えていたので、7万円（YES JAPANの参加費）は下手に短期留学をするよりも全然安いと感じ、バイトの春期講習（当時、私は塾講師のアルバイトをしていました）を休む旨をバイト先にすぐ伝え、二つ返事で参加を決定しました。しかし、実際には留学をしたことがなかったので、英語で履歴書や参加フォーム、志望動機などを書くのは正直しんどかったのを覚えています。今はそこで諦めないで本当に良かったと思います。

このプログラムの特徴はやはりその国際性にあると思います。私が参加した時は24カ国から参加者が来ており、正直、今まで国名を知らなかった国の人もありました（アゼルバイジャンとか・・・ごめんよ。トゥラル）。しかしながら、2週間ずっと寝食を共にするので、今まで赤の他人であり、国が違っても、国の名前を知らなくても、かなり仲が良くなります。また、このプログラムではマサチューセッツ工科大学、チューリッヒ工科大学、東京大学、法政大学等の教員が講義を行いますが、講義だけではなくグループワークがとて多いです。各テーブルで授業の内容を話し合ったり、実際に自分たちの意見を考え発表をしたりします。そのような体験を通して参加者間の距離が縮まっていきます。初めは英語がわからず、かなり寂しい思いをしましたが、みんなゆっくり話してくれるのでだんだん英語にも慣れ、自分の意見を言えるようになっていきました。

私は今でも数人の参加者とは連絡を取り合っており、来年の夏休みにはYESで出会った友人たちの家を点々としながらヨーロッパを旅行する計画を立てています。これもYESに参加できてよかったことの一つです。
(2008年12月20日)

